

# 荒川上流部改修から100年 首都圏の発展に大きく貢献



## 荒川上流部改修100周年(埼玉県・東京都)

荒川上流部改修から  
**100**年  
1918-2018

- 荒川流域ではたびたび浸水被害が発生しており、江戸時代の頃より大囲堤築造や瀬替えなど治水事業がおこなわれてきた
- 明治後半から大正初期にかけて相次いで大洪水に見舞われたことにより、改修計画早期着手を願う声が高まり、その結果、帝国議会で大正7年より荒川上流部改修計画を着工することとなった
- その着工より100年、堤防改築や横堤新築、ダム・遊水池整備等の様々な事業を行うことで浸水被害を大きく減少させてきている

### 首都圏でたびたび浸水被害が発生 大正7年より荒川上流部改修が本格スタート

### 浸水被害が大幅に減少し、 人口増加に大きく貢献

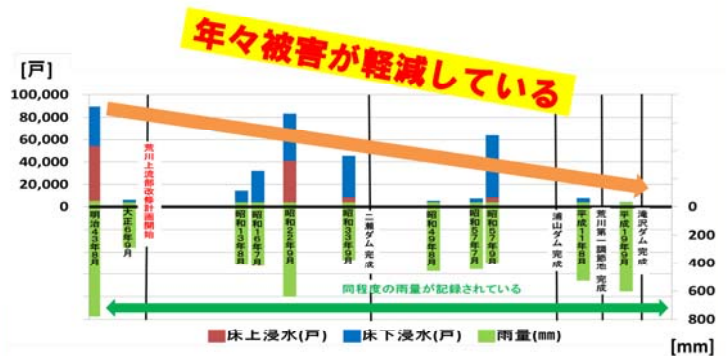


荒川改修工事（埼玉県さいたま市馬宮付近）  
初期工事と併せて築造が行われ、工事には蒸気機関車や馬車・トロリーを使用している様子が見える。  
写真は正統10年頃。



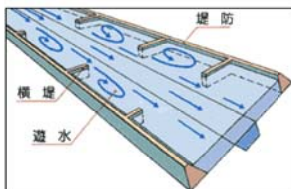
荒川改修工事（埼玉県さいたま市馬宮付近）  
蒸気機関車による土運搬の様子。  
土の運搬には3m3土運車がいられ20〜23台編成で運行された。

### 埼玉県における洪水雨量と全壊流出浸水戸数の関係



### 荒川上流部の100年間の治水事業

#### ■ 荒川上流部改修計画での治水事業（1918年～1954年）



横堤の築堤

（川幅の広い河川敷を利用し、遊水効果を高めている）



入間川合流点の瀬替え

（洪水時に荒川本川の水が入間川に逆流していたため、その影響の低減を図っている）

#### ■ 荒川上流部改修計画以後の治水事業（1954年～）



二瀬ダム

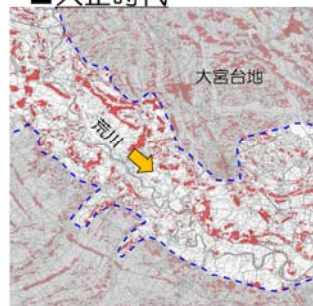


荒川第一調節池

### 荒川低地の市街化の進展状況

荒川改修による浸水被害低減により、  
人口増加や経済発展に大きく貢献しています。

#### ■ 大正時代



#### ■ 現代



市街化が  
進展

※雨量については、流域内の各観測所における総雨量の最大値とし、  
浸水被害については、東京都及び埼玉県全域の被害を示す

※雨量については、荒川上流域に位置する観測所の総雨量の最も高い地点の雨量を示す

出典：「埼玉県気象百年」「水害統計調査」